



現場から（最近のニュースから）

## ほんとうに変えるために



8/15の終戦記念日の前後には、戦争の悲惨さが語られ、二度と戦争をしてはならないという声があちこちから聞こえます。すべての人が、戦争は絶対に良くないということを知っているはずなのに、地球上で戦争がなかったのは累算でもわずかに6年ぐらいしかない、作家で軍事研究家の柘植久慶さんが著書に書いているそうです。戦争とは何かという視点から、戦争がなかった時期については諸説あるようですが、長い歴史の中で、どこかでいつも争い、戦争は起こっているのは事実です。そのような歴史の中で、人や世界を変えようとしてきた人々がいます。その中のひとり、有名なガンジーについて、ガンジーの孫が思春期の頃、ガンジーから教わった「人生の教訓」について書いた『おじいちゃんが教えてくれた 人として大切なこと』（アルン・ガンジー 著／桜田直美 訳 ダイアモンド社 刊）から、ピックアップした記事がありました。

ガンジーは孫に「あなたがこの世で見たいと思う変化に、あなた自身がなりなさい」ということを自分の姿を持って教えていたそうです。本には、「怒りの感情とどう付き合うか？自分自身とどう向き合うか？親として子にどう接するべきか？人としてどうあるべきか？」など、大切なことが書いてあるそうですが、その中から人を変えるために必要なことをピックアップしてありました。

その記事によると、人間は、ネガティブな批判ではなく、ポジティブな刺激のほうに反応するようになっているので、同僚や家族や友達に、「失望した」「あなたはダメだ」と伝えるのは、かえって逆効果だということです。人は批判されると意固地になり、攻撃的になるということです。本当に変わることができるのは、自分で尊敬できるお手本を見つけ、その人になりたいと思ったときだけだと言われています。ガンジーの心の広さと優しさも、ガンジーの言葉と同じくらい、インドの変化に大きく貢献したということで、ポジティブな精神は、自分や周りの人に与えられる最高の贈り物の一つだと言われます。洞察力のある歴史家の多くは、ガンジーの強みはむしろ交渉術にあると認めているそうです。ガンジーの大きな武器は、反対者の気持ちにより添い、理解できる能力で、イギリス政府と交渉するときも、つねに冷静で、相手に対する敬意を忘れなかったということです。「私の祖父は、いつも穏やかで優しい笑顔を浮かべていた。人々はそんなバプジ（祖父＝ガンジーのこと）の姿を見て、絶望の中でもがくよりも、平和的な道を探したほうがいいということに気づくのだ。」と孫のアルンは書いています。（8月11日 DIAMONDonline、＜怒りは99%ムダ！人を変える「たった1つの感情」より＞

ガンジーは、インド建国の父と言われる、すばらしい人でした。しかし、どんなに影響を与えても、変えることができたのは、一部分にすぎません。人間は、同じ人間同士の影響では変えることができない、深い根本の問題を抱えているのです。絶対に人間では解決できないその根本問題を知ることができれば、みんな同じ問題を抱えていると分かるので、人間同士の争いは無駄だと分かります。本当の問題は何であり、ほんとうに戦うべき相手は何なのかを正しく知ることがまず大切です。あなたにも、すべての人にもある根本の問題は何か、そして、人間では不可能な問題の解決はどうすればいいのか…そのことについて、いっしょに見てみませんか。



## 救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあい、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になりつつあります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になる、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快楽に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをし、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。



それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。



神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス・キリストです。イエス・キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してください(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち砕いて勝利なさいました(1ヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス・キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。



もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス・キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス・キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の神様として受け入れます。私の罪を赦してください、私を救ってくださいましたことを感謝いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」